

1. 今後の取組拡大に資するような障害者等に対する農作業体験実習等の提供モデル

(1) 都市部在住の当事者が地方へ出向いて農作業を行うと取組

① 取組のねらい

農福連携の「福」への取組拡大を加速させるため、生活圏内に農地が少なく農業に馴染みがない都市部在住の障害者が、農業現場を将来の就労の場として選択することに資する機会提供。また、補助事業終了後、民間事業として自走できるモデルとすること。

② 企画概要

体験ツアーの実施場所は、全国的な広がりを持たせるため群馬県前橋市(ゆずりは会菜の花)、静岡県浜松市(京丸園)、京都府京田辺市(さんさん山城)、大分県杵築市(博愛会)とした。なお、現地打合せでスタディツアーに適していると判断した埼玉県熊谷市(埼玉福興)も加えて、5カ所の設定とした。

体験ツアーの訴求対象は障害者を含む親子(基本設定は両親と高校生年代)とし、行程は誘引要素として観光色を濃くした(温泉等リゾート1泊+新幹線・特急列車 京都を除く)。

金額設定は、事業初年度ということで実績を得ることに重きを置き、自走可能性に配慮しながらも補助率7割程度と価格訴求力を高めた。



③ 募集方法

福祉組織ルートとして、一般社団法人手をつなぐ育成会連合会の役員から紹介を受け、東京都育成会、静岡県育成会、名古屋市育成会、大阪市育成会、福岡市育成会の各事務局へ募集依頼。募集方法は、各組織の会合での周知や支部役員から親御さんへの伝達等。募集開始時期は1月中旬。

また、次年度取組の連携も含め福岡県教育委員会特別支援教育課に特別支援学校の行事として大分県の福祉施設へ出掛けられないか尋ねたところ、やれるとすれば県内であると明言された。

④ 募集結果

結果として集客数はゼロであった。原因等は後段で分析する。

(2) 同一地域在住の当事者が取組主体に出向いて農作業を行う取組 ① 社会福祉法人 さんさん山城

法人概要

所在地	京都府京田辺市興戸小モ詰18-1		
代表者	施設長 新免 修	開所年	平成23年
主産品	茶、なす、えびいも	耕作面積	1.2ha

取組主体の選定理由

- 農福連携に取組む先進事業所のなかでもトップリーダーのひとつであること。
- 全国的に取組の広がりを持たせる意味から、西日本の取組主体のひとつとして選択した。

遠隔地募集で結果が得られず福祉事業所ルートで近地募集を実施

農福体験ツアーとして2月11日・18日・25日の各日実施で、募集ルートを「一般社団法人 全国手をつなぐ育成会連合会」役員から大阪市の育成会事務局に協力要請する形としたが、結果は集客ゼロであった。募集対象を事業所とつながりのある大阪府・京都府の特別支援学校とした結果、南山城支援学校高等部(精華町)の2年生男子生徒3名がそれぞれ母親とともに参加した。

当日の様子

カリキュラム

- 農福体験ツアー開会
- 「京の花菜」の圃場
- 大根の圃場
- 「京の花菜」の調整作業
- コミュニティカフェで昼食
- 茶畑見学(碾茶)
- 玉葱(種蒔)、えび芋の圃場見学
- 抹茶クッキーづくり体験
- 濃茶大福づくり体験
- 参加者集合、記念撮影。

視察風景



アンケート結果

1. 農福連携についてしていませんか。知っていた(3) 知らなかった(0)
2. これまで農作業に携わったことはありますか。ある(0) ない(3)
3. 今回の体験ツアーに参加してみたいか。楽しかった(3) 楽しなかった(0) その他(0)
4. 特に印象に残った作業があれば教えてください。○花菜摘み、大根引きが楽しかったです。とても良い経験になりました。○どの作業も楽しんでできました。特にクッキーを切る作業が楽しかったようです。またこのような機会があれば参加したいです。○花菜収穫と花菜袋詰め。クッキーづくり、大福づくり。
5. 今回のツアーに参加してみて、農福連携に興味を持ちましたか。興味を持った(3) 持たなかった(0)
6. 今後も同様の企画があれば参加したいと思いますか。思う(3) 思わない(0)
7. ご意見、ご要望、感想等
○卒業生に会えて嬉しかったです。
○ハヤシライス美味しかったです。

(3)スタディツアーの取組 ①社会福祉法人 ゆずりは会 菜の花

法人概要

所在地	群馬県前橋市青梨子668-2		
代表者	施設長 小淵久徳	開所年	平成26年
主産品	枝豆,玉葱,ブロッコリー	耕作面積	14ha

取組主体の選定理由(体験ツアーとして)

○農福連携に取組む事業所として全国的なネームバリューがあり、先進事業所のひとつであること。
○首都圏から1泊圏内で、車で30分程度の距離に温泉地(伊香保温泉)もあり、観光要素を加えた農福体験ツアーを、障害者を持つ家族に訴求する場合、立地が適していること。

スタディツアー参加法人

法人名	参加者数
全国農業協同組合連合会	1
農林中央金庫	2
全国共済農業協同組合連合会	1
JA共済総合研究所	2

当日の様子

カリキュラム

- 枝豆の圃場
- ライスセンター(乾燥、苗床)
- 長葱の調整
- 規格外品を調整
- 田んぼ
- コイン精米機
- 長葱種蒔ハウス
- グループホーム

(ここから「ゆずりは」の施設)

- 泥葱調整
- ビール麦、小麦の畑
- 土器洗い
- 玉葱皮むき
- レストラン
- 意見交換会

視察風景



アンケート結果

■「菜の花」が取組んでいる農福連携について
○利用者の社会参画に具体的に取り組んでいる。
○工賃向上、利用者の意欲向上、効率化の取組、全てが繋がっている。
○周辺住民の理解を深めることも進めている。JA・企業との連携も進めている。
○地域の多様な組織との連携を構築し素晴らしい取組をしている。
○理念のシンプルさ、利用者目線の徹底、関係先の多様さに非常に感銘を受けた。
○高工賃を追求している点が非常に特徴的。働き甲斐はもちろんのこと、自らが生活するための給料を得る、自立するという観点を大事にしている、それを農業で達成するという点が素晴らしい。

■参加法人の農福連携の取組計画他

○日本農福連携協会、JA共済総研、JA共済連との包括連携協定による取組を推進する。
○年に7回JA共済マルシェを開催しているので、農福連携商品を取扱う(ノウフクマルシェのような回も設定したい)。
○農福連携への関心が高い県域や全農労働力支援ブロック協議会にスタディツアーを紹介することが可能である。

(3)スタディツアーの取組 ②埼玉福興株式会社

法人概要

所在地	埼玉県熊谷市弥藤吾2397-8		
代表者	代表取締役 新井利昌	創立年	平成8年
主産品	葱の苗、オリーブ製品	耕作面積	4ha

取組主体の選定理由(体験ツアーとして)

○事業の位置づけがソーシャルファームであり、「福」の広がりを体現している法人であることから、体験に留まらず多様な方面の学びのニーズに応えられるであろうこと。触法障害者を受け入れ、農作業のリーダーとして育成し更生に成功するなど、刑務所出所者等の農福連携事業所での先行優良モデルであること。○農福連携に取組む事業所として全国的なネームバリューがあり、先進事業所のひとつであること。

スタディツアー参加法人

法人種別	参加者数
保護司会	3
社会福祉法人	2
更生保護法人	5

当日の様子

カリキュラム

- 主催者挨拶、オリエンテーション
- 長葱の苗床ハウス
- オリーブオイル搾油作業所
- 苗テラス(玉葱の苗床づくり)
- ハウス(ほうれん草水耕栽培)
- イーピーエス社の特例子会社の圃場
- イーピーエス特例子会社の社屋(旧牛舎)
- オリーブ畑
- グループホーム クラリスホームの食堂
- 薬膳ランチ
- 藍染工房
- 藍染体験

視察風景



アンケート結果

■「埼玉福興」が取組んでいるソーシャルファームについて

- 今後のソーシャルファームの方向性について大変勉強になった。
- 農業で障害者や触法者の働く場所があり、農家の支えになっていること、ステップアップとして雇用として働く場もあり、地域・企業とともに連携している理想的なソーシャルファームだと感じた。農業を通して地域の活性化にもつながっていることを感じた。
- 場所の広さや扱う種類の多さなど、想像以上の規模に驚いた。利用者が自主的に関わっている姿も印象に残っている。
- 7~8年前に訪問し2回目だったが、特例子会社との有機的な連携、オリーブの森の発想、エコツーリズムなど発展形で驚きとともに感動した。確実に次の担い手が育ち、支援者・被支援者の垣根なく地域の発展と一体化しているところが素晴らしかった。
- 持てる組織や人を結びつけられていること、互いが活かされていること、相応の利益が上がっていること、楽しそうにやっていること、さらに社会課題の解決まで目指していることなど素晴らしいの一言。
- 持続可能な社会を考えるうえで、たくさんのヒントがあった。

(3)スタディツアーの取組 ③京丸園 株式会社

法人概要

所在地	静岡県浜松市南区鶴見町380-1		
代表者	代表 鈴木 厚志	創立年	平成26年
主産品	姫みつば、姫ねぎ	耕作面積	2.6ha

取組主体の選定理由(体験ツアーとして)

○農福連携に取組む事業所として全国的なネームバリューがあり、先進事業所のひとつであること。
○中京圏から1泊圏内で、車で30分程の距離に温泉地(館山寺温泉)もあり、観光要素を加えた農福体験ツアーを障害者を持つ家族に訴求する場合、立地が適していること。

スタディツアー参加法人

法人種別	参加者数
農福事業所	4
学校関係者	2
特例子会社	1
その他	5

当日の様子

カリキュラム

- 顔合わせ、自己紹介
- 鈴木社長より説明
- 洗い場
- チンゲン菜調整作業場
- チンゲン菜ハウス
- チンゲン菜定植体験
- 昼食(姫ねぎ、チンゲン菜、姫みつばの入ったプレートランチ)
- 鈴木社長により農福講話
- 集合写真

視察風景



アンケート結果

■「京丸園」が取組んでいる農福連携について

○農業経営改革の見本であることを再確認した。特に重要なことは農業技術の深化の継続と新たな知見の探索の両面を実現化していること。京丸園さんは、福祉分野の方を経営の戦力とすべく業務内容を変革することで、物理的な時間を確保し、多様な知見に接する機会を得ている。
○様々な事例を現地調査しているが、農福連携を農業経営の改革まで反映させている経営体は稀である。
○どのように収益を生むのかについて、安定栽培ができる作物、ミニサイズで差別化、短い生育期間で回転率を上げる、というシステム作りに驚いた。
○障害者雇用について疑問に思っていたところが多くクリアになった。

■参加法人の農福連携の取組計画他

○農業班5名の社員が9反の農地で露地栽培による野菜作り、水稲栽培に取り組んでいる。障害者向け体験農園も行っている。
○農業体験と自社作物を使った食事をセットにしたプランを造成中なので、活用していただきたい。

(3)スタディツアーの取組 ④社会福祉法人 博愛会 住吉浜リゾートパーク

法人概要

所在地	大分県杵築市守江1165-2		
代表者	園長 釘宮 浩三	創立年	平成22年
主産品	いちご	耕作面積	1,500㎡

取組主体の選定理由(体験ツアーとして)

○全国に取組の広がりを持たせる意味から、西日本の取組主体のひとつとして選択した。
○マリンリゾート一帯を一括運営する同パークは、広大な敷地内にホテル・レストラン・観光いちご農園などを有し、農作業体験+観光のモデルとして最適の施設であること。

スタディツアー参加法人

法人種別	参加者数
株式会社	2
NPO法人	2

当日の様子

カリキュラム

○ミニセミナー(26日夕刻)
ゆずり葉会菜の花 小淵久徳氏
大隅半島ノックコンサート
天野雄一郎氏
○住吉浜マリンホテル
40名定員のA型、B型事業所。団体客中心にホテル事業。客室管理、レストラン運営等、多彩な作業に取り組む。
○浜イチゴ園
ハウス5棟に、15mの液肥栽培施設が45列配置されている。障害者3名、管理者1名のチームで全ての作業を担う。
いちごのソース、アイスクリーム等の加工品を製造し、観光客に提供。
○キツキテラス
A型、B型として運営。接客、魚介類の下ごしらえ等、多彩な作業を障害者がこなす。

視察風景



アンケート結果

■「博愛会」が取組んでいる農福連携について

○農業から観光業まで幅広い障害者の皆さんが関わっている姿を見て感動した。同時に障がいを持っていてもできることがあるので、可能性を引き出すこと、環境を整えることの重要性も感じた。
○ホテル・レストランの取組については非常に新しく、驚きが多かった。たくさんのヒントを持って帰れるというのと、今後の動機付けにつながった。
○規模が大きく、福祉で観光を営まれていることに驚いた。しっかりとした運営で、収益も素晴らしい。見本となることばかりで、特にいちごは導入を検討していく。
○イチゴ観光農園はB型で運営されているところに、役割が分担され指示、理解が上手くできていると感じた。
○事務所や駐車場などもきちんと整備され、一般客も立ち寄りやすい条件が整っている。障害者施設とは思えないクオリティ。あえて前面に出していないところがとてもよいと感じた。安価な価格設定でリピーターにもなりやすい。

2. 障害者等に対する農作業体験実習等を提供可能な農福連携の取組主体

(1) 社会福祉法人 白銀会

(2) 社会福祉法人 ゆすりは会 菜の花

(3) 社会福祉法人 土穂会ピア宮敷

法人概要

法人概要

法人概要

所在地	茨城県石岡市鹿の子4丁目16-52		
代表者	理事長 長谷川 浅子	法人設立年	平成2年
主産品	豆類、なす	耕作面積	4ha

所在地	群馬県前橋市青梨子町668-2		
代表者	施設長 小淵 久徳	開所年	平成26年
主産品	枝豆、玉葱	耕作面積	14ha

所在地	千葉県いすみ市岬町岩熊138-10		
代表者	理事長 内野 浩二	法人設立年	平成12年
主産品	菜花、切干大根	耕作面積	1.5ha

当該法人の特色

当該法人の特色

当該法人の特色

○白銀会の旗艦施設が石岡市の「しろがね苑」であり、周囲に4町歩の畑を借り受けて農業に携わっている。

○鉾田市に多機能型事業所「たいよう」を運営している。農業は農家への施設外就労で、メロンやブルーベリー、トマト、ラッキョウなどを扱っている。

○しろがね苑から車で1分の距離に、イタリアンレストランの「トラットリア・アグRESTE」を運営している。建材に木材と石材をふんだんに使用したこだわりの空間が広がっている。

○特徴的な取組として、企業の障害者雇用の課題解決の仕組みとして、日立建機(株)と白銀会とで農業生産法人を設立し、その運営は白銀会が担っている。日立建機が雇用する障害者を農業生産法人に出向させ業務にあたっている。その障害者は白銀会が供給する。白銀会が運営するグループホームに居住する方もいる。

○高工賃などが評価され、ノウフク・アワード2021で審査員特別賞、2022ではグランプリを受賞。農福連携の世界で、名実ともにトップランナーのひとり。

○事業所スタート当初は内職、PC解体、土器清掃などが主な作業であったが、現在は売上の90%が農業。

○農産物のうち80%が野菜。主にJAへ出荷。地域農業の中核となっている。

○農福連携自然栽培パーティー全国協議会に加盟し、無肥料・無農薬の米や玉葱などを栽培している。

○カシオ計算機株式会社と全国で初めての取組「一反パートナー」を平成29年にスタートさせ、40名の社員と家族が田植え・稲刈りを体験。

○農協から譲受けた機械でライスセンターを運営し、地域の農家から乾燥調整作業を受託している。

○コメ苗の委託販売は苗床約2千枚に達している。

○一般就労移行者も輩出している。

○ピア宮敷では4千坪の菜花畑を有しており、JAいすみが扱う量の50%を出荷している。収穫は1月中旬から3月中旬。

○菜花栽培農家が減少する中、地域の菜花栽培維持を期待される同法人は、ノウフク・アワード2022フレッシュ賞を受賞した。

○菜花の圃場の隣に「循環型酪農」の高秀牧場があり、酪農体験やチーズ・ジェラート等の乳製品を揃える「ミルク工房」も運営している。

○菜花栽培は以前高秀牧場が行っていて、4年前ピア宮敷に事業譲渡された。

○冬季作業として、切干大根の製造を行っている。

○讃岐うどん店「どんちゃん」を運営しており、利用者の就労支援の場になっている。

○純正ごま油を製造し、いすみ市内の土産店などで販売している。ごま油の作業工程は時間を要し、製造は1日6kg(ビン24本分)。

2. 障害者等に対する農作業体験実習等を提供可能な農福連携の取組主体

(4) 埼玉福興 株式会社

(5) NPO法人 支援センターあんしん

(6) 京丸園 株式会社

法人概要

法人概要

法人概要

所在地	埼玉県熊谷市弥藤吾2397-8		
代表者	代表取締役 新井 利昌	設立年	平成8年
主産品	葱の苗、オリーブ製品	耕作面積	4ha

所在地	新潟県十日町市高田町3丁目西371		
代表者	会長 樋口 功	設立年	平成14年
主産品	米、さつま芋、エゴマ	耕作面積	3,800㎡

所在地	静岡県浜松市南区鶴見町380-1		
代表者	代表 鈴木 厚志	設立年	平成26年
主産品	姫みつば、姫ねぎ	耕作面積	2.6ha

当該法人の特色

当該法人の特色

当該法人の特色

○農福一体のソーシャルファームの理念のもと、障害者にとどまらない多様な人々に働く場をつくり、結果として地域農業の中心的な役割を担っていることが評価され、ノウフク・アワード2020優秀賞を受賞。

○種・肥料・資材のモリタ社と提携し、葱・玉葱苗を生産。農家300軒、福祉施設7法人に出荷している。

○特筆すべき取組として、イーピービズ社(医薬品関連業イーピーエス社の特例子会社)に事務所・作業所を賃借。社員となる障害者も供給(埼玉福興運営のグループホームに居住)。そのうえで農作業を委託するという他に例のないビジネスモデルを展開。

○オリーブ畑を持ち、実を搾ったオイルは世界的な賞を受賞している。

○新たな取組として「藍染」に力を入れている。自前の藍を畑で栽培し、工房でストールなどの製品も染めている。

○荒廃地を水田に蘇らせ、農薬無散布の「魚沼コシヒカリ」を栽培。

○雪国新潟で育つ甘い大根を原料にした切干大根を製造。

○トイレトペーパー製造で年間約4千万円の売上。主には、障害者優先調達推進法に基づき、近隣の公共施設が購入している。また、内約1千万円がふるさと納税による売上。

○宿泊施設「交流館」は、雪国に適した新潟の農家などで伝統的な「セイガイ造り」の豪邸。

○越後妻(つま)有(り)(十日町市、津南町)で開催され、一年を通じてアートを媒介に地域の価値を発信している「大地の芸術祭」。3年に一度開催されコロナ前は50万人超の来場者。常設展示も多数あり、農福体験ツアーに付加する地域の魅力として絶好の素材。

○言わずと知れた農福連携の農業者側の大家。誰もが参画できる農業「ユニバーサル農業」を提唱し、農業経営に立脚した農福連携を標榜する。

○京丸園は、農林水産祭天皇杯、日本農業賞大賞、ノウフク・アワードグランプリ他、数々の受賞歴を誇る農業界のトップランナーのひとり。

○京丸園で作られる野菜は全量市場出荷。

○あいがも農法によりコシヒカリ・あきたこまちを栽培。JAのファーマーズマーケットで販売している。

○株式会社ICTひなり(IT企業の特例子会社)が雇用する障害者を受入れて、農作業請負の農福連携が行われている。

○2024年に浜松市ユニバーサル農業研究会が20周年を迎えるのに合わせ、「小さな農家の生きる道」と題してフォーラムの開催を計画している。

2. 障害者等に対する農作業体験実習等を提供可能な農福連携の取組主体

(7) 社会福祉法人 さんさん山城

(8) 社会福祉法人 青葉仁会

(9) 社会福祉法人 博愛会 住吉浜リゾートパーク

法人概要

所在地	京都府京田辺市興戸小モ詰18-1		
代表者	施設長 新免 修	開所年	平成23年
主産品	茶、なす、えびいも	耕作面積	1.2ha

法人概要

所在地	奈良県奈良市杣ノ川町50-1		
代表者	理事長 榊原 典俊	設立年	平成3年
主産品	さつま芋、ブルーベリー	耕作面積	12ha

法人概要

所在地	大分県杵築市守江1165-2		
代表者	園長 釘宮 浩三	開所年	平成22年
主産品	いちご	耕作面積	1,500㎡

当該法人の特色

○聴覚障害者らが「京の伝統野菜」を守り、地域活性化に貢献していることを評価され、ノウフク・アワード2020優秀賞、ノウフク・アワード2021グランプリを受賞。

○宇治茶、京都えびいも、万願寺とうがらし、京の花菜、京都田辺茄子などの地域特産品を継承。

○季節ごとに農作業があり、1年を通して体験が可能である。特に春から秋が豊富にある。

○農作業以外に、抹茶粉末入りの大福・クッキー作りを体験できる。

○地域住民に人気のコミュニティカフェでは、さんさん山城で栽培した京野菜を使ったワンコインランチが食べられる。

○さんさん山城はノウフクJASの認証第1号事業所であり、農産物や加工品のパッケージで積極的にそのブランド化を推進している。

当該法人の特色

○地域密着型ノウフクが評価され、ノウフク・アワード2020審査員特別賞を受賞。

○法人のコンセプトは「地域をデザインする」。運営の目的は人口流出防止。利用者約200名が様々な業務に従事。

○事業規模を示す一例として、店舗レジ通過顧客数7万人、さつま芋15t生産。荒廃茶畑を開墾したブルーベリー園は現在約2千本、収穫量12tに及ぶ。

○古民家1棟、ログハウス2棟、ペンションも所有。

○上記以外に、棚田、木工所、紙すき、せつけん工場、カフェ、ジェラート工房等々多彩な事業を展開。

○アウトドア用品ブランド「モンベル」と提携した店舗も運営。

○農業生産、加工、店舗運営、宿泊施設と地域の基幹的な事業法人。「太安万侶と青葉仁会はこの地の誇り」という地元の方の言葉にも納得。

当該法人の特色

○博愛会本部は大分市に所在し、県内に8ヶ所の事業所を運営する(高齢者施設1ヶ所含む)。

○博愛会では、初代理事長が唱えた「人の喜ぶ顔を見て喜びなさい」という理念の基、「やさしさ日本一の社会福祉法人」づくりを進めている。

○住吉浜リゾートパークは、ホテルを中心にゴルフ場、海水浴場、海鮮バーベキューレストラン、いちご観光農園等を有する総合レジャー施設。

○農福体験としては、いちご農園での農作業のほか、併設するジェラート工房の仕事も就労体験として可能である。

○就労体験としては、ホテルのベッドメイキング等のバックヤード業務も適当である。

○海鮮バーベキューレストラン「KITSUKI TERRACE」は、守江湾を一望する日本最大級のモダンな「カキ小屋」。

3. 事業実施結果の検証及び今後の方向性等 (1) 結果検証

① 当初設定の新幹線等を使って都市部から地方部へ移動する体験モデルが今回集客できなかったことについての検証

ア 今回集客できなかった理由(仮説)

(ア) 募集を要請した都市部の「育成会」メンバーにとっては、農業というものに対する物理的・心理的距離が思いのほか遠く、障害者の就労としてイメージできていない。農福連携に馴染みがない。

(イ) 主催者としては、今回の企画は補助率が高く、非常にお得感があると考えていたが、職業体験のために支払う金額としては高額に感じられたようである。実際に育成会の方から、「数千円でも出さない。」というコメントがあった。

(ウ) 募集期間が短く、十分に情報が行き渡らなかった。

(エ) 育成会のメンバーの子供は、比較的年齢が高い者が多く、今回のターゲットとして適当ではなかった。実際に、「若い世代の親はネットで自在に情報を得られるので、育成会に入らない人が多い。」というコメントが、ある福祉事業者からあった。

イ 課題として認識したこと

(ア) 特別支援学校の就業体験の取組として考えた場合、東京以外は都市部といっても同県内に農地があるため、県を越えて出向くということにならないこと。

(イ) 就業体験である場合、当事者の親の反応として、参加費数千円でも抵抗感があるということが一般的な感覚であるらしいこと。

(ウ) 農業を職業にできるかどうかという、当事者と親にとって切実な事柄である職業体験と、物見遊山である観光がアンマッチであること。

② 同一地域内在住の当事者が取組主体に出向いて農作業を行う取組を今後進める上での検証

ア さんさん山城において3組の親子が集まった理由

(ア) 福祉事業者と学校に以前から関係性があり、また、さんさん山城自体の取組が評価されているので、学校側が積極的に動いてくれたこと。

(イ) 3組中2組は、以前にさんさん山城で就労体験をしており、参加者親子に、この施設で働く、ということのイメージが湧いていること。

イ 課題として認識したこと

(ア) 一部の学校の先生は、学校内で自ら提案するのではなく、上席者からの指示に基づいて展開したいという要望があったので、次の機会には組織的に要請すべきと考えた。

(イ) 交通機関で移動し、宿泊も伴う行程でない民間事業者(旅行会社)が事業化する案件になりづらい。将来的な移住までを視野に入れた、入口としての農福体験+宿泊という建て付けならば成立する可能性があるが、その情報流通ルートが新たな課題として浮上する。

③ スタディツアーを今後進めるうえでの検証

ア 今回4事業所の募集が奏功した理由

(ア) 埼玉福興については、多種多様な高レベルの取組が展開されている中で、触法者の農福連携が保護司会や更生保護団体にマッチしたこと。

(イ) ゆずりは会菜の花については、JAグループ全国機関に農福連携を支援しているという事業ニーズが萌芽し始めたところであり、学びの機会提供が歓迎されたこと。

(ウ) 京丸園と博愛会については、農福連携技術支援者という農福連携に携わっている、又はこれから携わるといふメンバーであり、学びのニーズが潜在していたこと。

イ 課題として認識したこと

(ア) 将来的には、誰もがアクセスできる「農福連携視察受入事業所データベース」があると、農福連携の広がりに資する。

(イ) 福の広がりということで、高齢者や生活困窮者等の関係事業所も加わるとより充実する。

3. 事業実施結果の検証及び今後の方向性等 (2) 今後の方向性等

① 遠距離移動の農福体験

(ア) 障害者当事者の体験ということであれば、親子・家族での移住を視野に入れ、農福体験と当該地域全体を知る、というニーズに応える内容に整理すること。加えて、マッチする提案ルートや連携先を研究し、今年度事業で結果が出なかった領域の打開策とする。

(イ) これから農福連携に取り組もうとしている福祉事業所、企業等が先進事業所に出向き、職員自らが実体験するというニーズを掘り起こす。

② 同一地域内の農福体験

域内募集は、受入事業所とつながりのある特別支援学校に、県教育庁ルートで要請することを基本とする。施設職員から、先生向けの説明会や体験会も有効ではないかとの意見があったほか、大阪の先生からモニターツアーを希望する声もあった。

就労する年代にこだわらず、幅広い年代の児童や生徒の体験受入について施行する。特に、首都圏において、小学校や中学校の特別支援学級の農業体験についても、検討する。

③ スタディツアー

法人、行政、大学等に対して行ういわゆる「一本釣り」の提案と、それらの横断組織に「混載型」で提案する2通りの形で進める。

ツアー実施先を中心とした情報を集約し、発信のためのwebページを構築する。これにより旅行会社、障害者メディア、農業系メディア等への情報発信を行うとともに、農福連携の一般向けの情報発信、体験実習やスタディツアーのマッチングの推進ツールとして活用する。障害種別での配慮、受入体制等を整理し、表示することにより、当事者の参加への心理的なハードルを下げる。

農福連携の優良先事例となっているノウフク・アワードの受賞事業所等では、視察や見学が増え、事業所運営上の負担となっているケースも出始めている。受入に関し、料金体系を設定した上で、事業の収入と利用者工賃へつなぐ仕組みづくりと、視察者への理解の促進に取り組む。

少人数での視察受入は催行日を集約し、参加者同士の交流を図ることも、農福連携の学びの機会としては貴重であり、受入事業所の負担軽減につながる。